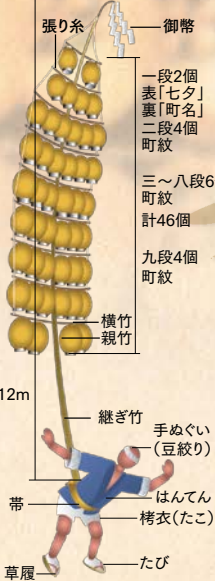


伝統の技



大若：長さ12m
重さ50kg

計46個の提灯を吊します。力四分、技六分と言われる絶妙なバランスで竿燈を、手のひら、額、肩、腰などに移しかえる妙技が見どころです。

竿燈妙技会(昼竿燈)

腕自慢の妙技が冴える竿燈妙技会は、差し手の技術向上に役立てる目的で始められました。規定演技は、流し・手のひら・額・肩・腰の5種目とも30秒、すべて片手で操ります。自由演技は、継ぎ竹を増やしたり、花傘や扇子などの小道具を使ったスリリングな演技が見ものです。



- 会場／「エリアなかいち」にぎわい広場
- 日程

8月4・5日／9:20～15:20

- 大若団体戦予選—規定、自由演技
- 大若個人戦予選—規定演技
- はやし方 予選

《合同演技》(8月4・5日)

※予選の合間に1日2回合同演技を行います。

8月6日／9:20～15:20

- 大若団体戦決勝—規定(午前・午後)、自由演技(午後)
- 小若団体戦—規定演技・はやし方(午前)
- 大若個人戦決勝(午後)
- はやし方 決勝(午前)

チャレンジコーナー

小若、幼若に挑戦できます。

- 8月4・5・6日
- 12:00～13:00 (受付は11:00ごろ)

参加人数
100人
(毎日先着順)

同時開催イベント

◆竿燈屋台村

- ★市役所会場(竿燈まつり主会場西側)
日時／8月2日 17:00～21:00
8月3日～6日 15:00～22:30

- ★中央会場(竿燈まつり主会場東側)
日時／8月3日～6日 15:00～21:30

- ◆ご当地グルメフェスティバル
日時／8月3日～6日 15:00～21:30
会場／イーホテル秋田向かい(秋田ニューシティ跡地)



8月3・4・5・6日
Akita Kanto Festival
秋田市竿燈まつり実行委員会
【秋田市観光物産課】(土・日・祝日休業)
TEL.018-866-2112 FAX.018-866-2425
竿燈まつり 検索 <http://www.kantou.gr.jp/>

夜空に揺れる、黄金の稲穂。
竿燈総数約250本 提灯総数約10,000個

稲穂に見立てた竿燈が夏の夜空に揺らめき、五穀豊穡を祈願する「秋田竿燈まつり」。東北三大まつりの一つで、250年以上の歴史を持つ国重要無形民俗文化財です。大きな竿燈を自在に操る差し手の技は、日々の訓練とバランス感覚が必要とされます。代々受け継がれてきた伝統の技は、まさに職人芸。昼に行われる妙技会ではそんな腕自慢たちが技を競います。

竿燈の起源は江戸時代中期とされ、「ねぶり流し」「眠り流し」と呼ばれる睡魔払いのお盆行事だったという説が有力とされています。昔は「夏になると暑さが厳しく、労働もきつく、つい眠くなる。その隙に病魔が忍び入り、眠り病に冒される」と考えられ、その睡魔を退治するために、眠り流し「竿燈」を行ったと伝えられています。

提灯には町内ごとに町紋が描かれており、そのデザインは帆船や馬などの生活に深く関わる物や、豊作や子宝を意味する縁起物であったりと様々ですが、ろうそくが灯され浮かび上がるその絵柄はどれも味わい深いものです。

竿燈を盛り上げるお囃子は、町を練り歩くときの「流し囃子」と、演技を行うときの「本囃子」の二つがあります。

また、竿燈の掛け声は、『ドッコイショー ドッコイショー ドッコイショッショ ドッコイショ、オエタサー オエタサー、根ッコツイタ オエタサ』ドッコイショは重い物を持ち上げるときの掛け声。オエタサーはうまく据わった竿燈が、根づいた稲のように動かない意味を表しています。

陽が落ち始めると、メイン会場となる竿燈大通りには「流し囃子」とともに竿燈が集まってきます。そして陽も沈み提灯が灯され、笛の合図でお囃子が「本囃子」になり演技がはじまり、稲穂のように揺らめく竿燈が夜空を照らします。